

ふーぬ風

発行 〒901-1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL: (098) 889-3515
FAX: (098) 835-6010

ヘチマ産地の維持・発展を目指して ～地域農業振興総合指導事業のまとめから～

南部農業改良普及センターでは、ヘチマ産地の維持・発展を目指して、南風原町山川地域を重点対象に、平成25年度から3年間、支援して来ました。その主な取組をご紹介します。

【山川農業の歴史を語る会】

3年間の活動をまとめるに当たって、山川農業の歴史を語る会を開催しました。地域の先輩農業者を招き、山川区長を座長に関係機関と共に聞き取りを行いました。



【語る会：前列が先輩農業者、後列が聞き手】

◇いつからヘチマ栽培が始まったのか？

→現在のような地這い栽培をするようになったのは、昭和40年頃、豊見城から種が持ち込まれた説が有力。

◇なぜ、山川で広がったのか？

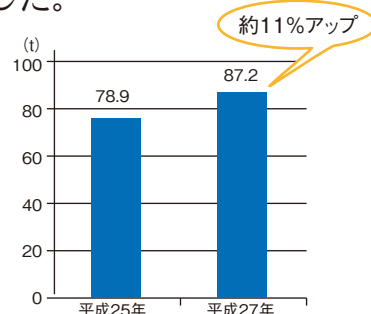
→山川は長堂川を水源に、土地も肥沃だった為、野菜が良く育ちました。人(気性)も負けず嫌いで、よく働きました。

◇なぜ、ヘチマが作り続けられているのか？

→戦前は軽便駅があったおかげで、販売しやすい環境にありました。復帰後、本土から様々な野菜が入ってくるが、ヘチマは、ほぼ全量が県産であったためです。

◆ヘチマの産地が築かれた背景には、

- ①豊かな土と豊富な水、②販売しやすい環境、③人材(働き者) この3条件がありました。



山川地域のヘチマ出荷量 (JA 取扱)

【活動のあしあと】

山川地域のヘチマ出荷量(JA取扱)は、事業導入時の平成25年実績で78.9トンでした。平成27年実績では87.2トンと約11%伸びました。

南風原町とJAおきなわ南風原支店では施設栽培を推進し、生産農家の努力により、冬春期にもヘチマが出荷され、花と食のフェスティバルにおいて、2年連続入賞することができました。また、展示ほや調査研究では、UVカットフィルムや天敵資材の活用によりハモグリバエ防除の効果が見られ、新技術を実践するモデル農家が誕生しつつあります。

消費拡大に向けては、南風原町の「はえばる美瓜(びゅうりー)コンテスト」等の取組により、新しいメニューの創出が広がっています。

山川地域の住民と南風原町、JAおきなわ南風原支店の強力な連携のもと、ひいては南風原町商工会、ビューリーズのご協力などにより、南風原町山川のヘチマは維持され、発展しようとしています。

(普及企画班：根路銘利加)



受賞者：山川で施設栽培する
神里靖・和美夫妻

キクの白さび病発生に注意！！

低温、降雨が多い時期、キクの白さび病の発生が危惧されます。キク栽培において、白さび病は発生させると防除が困難な病気ですので、予防に重点を置いた薬剤散布を心がけましょう！そこで白さび病の特徴と防除方法のポイントを紹介します。

1 白さび病とは

●病原菌の特徴

病原菌はプクシニアホリアナ(Pucciniahoriana)という担子菌類に属す糸状菌(カビ)の一種で、タマネギやラッキョウ、ニラさび病などの重要病害を起こします。この菌はキクの葉の組織内や病斑内、あるいは冬至芽の組織内で越冬し、これから担子胞子が飛散して第1次伝染します。



↑ 葉表

●発病条件

発生適温は15～23℃で、沖縄県では11～5月がこの時期にあたります。また冬胞子は降雨時や結露時の湿度が90%以上の時発生が著しく、2～3時間で担子胞子が形成され、風雨等で飛散します。



↑ 葉裏の白さび症状

●白さび病の症状

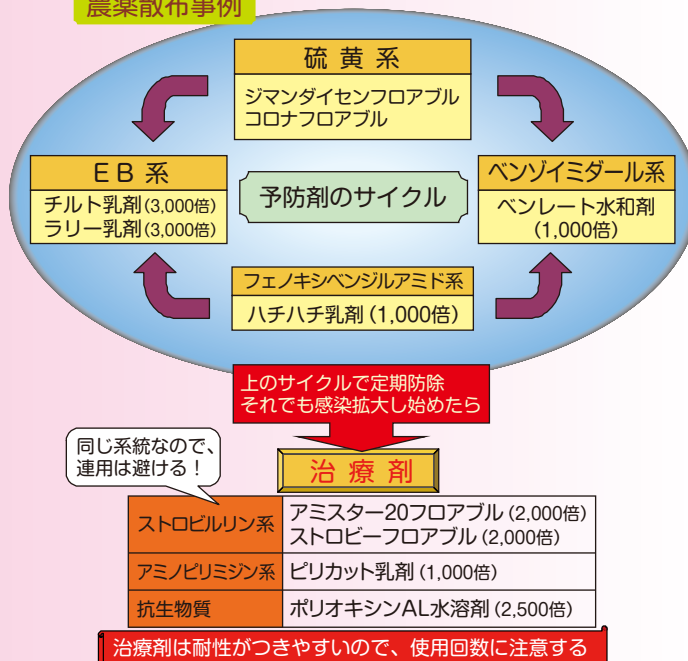
病斑は初め葉の裏に直径1mm程度の乳白色の小斑を生じ、黄色味を帯びながら2～3mmになり、肌色～淡褐色、イボ状の隆起が生じます。この隆起物は病原菌の冬胞子が集まった物で、それが破裂すると担子胞子が飛び出し、飛散感染します。

2 防除のポイント

- ①育苗段階から徹底防除し、本畑に菌を持ち込まない！
- ②発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ③圃場で発病をみつけたら、速やかに発病葉を除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出す。
- ④防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないよう農薬のローテーション散布を行う。

(農薬散布事例表参照)

農薬散布事例



(園芸技術普及班：座喜味利将)

おきなわ花と食のフェスティバル2015開催!!

平成28年2月6日(土)～7日(日)に奥武山公園にて「おきなわ花と食のフェスティバル2015」が開催されました。園芸フェアでは、各作物を悩ませた高温、低温の気象条件にも負けず、県内各地から多数の出品があり会場を盛り上げていました。南部管内からは、花き品評会(416点)、野菜品評会(278点)、果樹品評会(67点)から特別賞計14賞が受賞され、果樹では農林水産省生産局長賞を獲得しました！各受賞に際しては、出荷規格に沿った荷姿であるかなどが審査基準となっていました。また産地活動表彰(おきなわブランド化貢献部門)において、JAおきなわ大里支店野菜生産部会とJAおきなわ糸満支店花卉生産部会が受賞されました。受賞された皆様おめでとうございます！

第31回花き品評会受賞者	受賞者	品目名	市町村	
内閣府沖縄総合事務局長賞	玉城 肇	小ぎく	糸満市	
沖縄県農林水産部長賞	新垣 正則	小ぎく	糸満市	
日本花き生産協会会長賞	島袋 幸光	ストレリチア	南風原町	
九州花き卸売市場連合会長賞	日賀ファーム	トルコギキョウ	八重瀬町	
金賞	玉城 盛仁	小ぎく	久米島町	
	新垣 秀幸	小ぎく	糸満市	
	与那嶺直次	小ぎく	八重瀬町	
銀賞	新垣 悦子	小ぎく	糸満市	
	高安 一麻	小ぎく	久米島町	
	玉城 祐子	小ぎく	久米島町	
	喜納 勝男	小ぎく	八重瀬町	
	新垣 充	小ぎく	糸満市	
	前川 守和	ストレリチア	南城市	
銅賞	日賀ファーム	トルコギキョウ	八重瀬町	
	神里 昇	アレカヤシ	八重瀬町	
	玉城 由美	小ぎく	糸満市	
	仲間三枝子	小ぎく	八重瀬町	
	玉城 光次	小ぎく	八重瀬町	
	大城 政勝	小ぎく	糸満市	
	金城 均	小ぎく	八重瀬町	
	金城 兼二	小ぎく	八重瀬町	
	仲間 啓太	小ぎく	糸満市	
	安里 きく	小ぎく	八重瀬町	
	新垣 秀幸	小ぎく	糸満市	
	本永 栄	セローム	久米島町	
	比嘉 義弘	観葉鉢物	那覇市	
	第26回野菜品評会受賞者名簿	受賞者	品目名	市町村
沖縄県知事賞	玉代勢兼安	さやいんげん(関東)	南城市	
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長賞	金城 直也	トマト	豊見城市	
沖縄県農林水産部長賞	東江 泰彦	大型ピーマン	八重瀬町	
沖縄県市長会長賞	國吉 正治	ハーブ(バジル)	豊見城市	
沖縄県町村会長賞	新垣 真人	かぼちゃ	南風原町	
沖縄県農業共済組合組合長理事賞	城田 英光	中型ピーマン	八重瀬町	
沖縄県青果物流通協議会会長賞	仲間 栄吉	きゅうり	八重瀬町	
銀賞	大城 勝也	トマト	豊見城市	
	安谷屋 剛	ミニトマト	豊見城市	
	長嶺真奈美	きゅうり	糸満市	
	神里 靖・和美	へちま	南風原町	
	與儀 実男	かぼちゃ	北大東村	
	新垣 次夫	なす	那覇市	
	大田 政春	大型ピーマン	八重瀬町	
	金城 毅	中型ピーマン	糸満市	
	与儀 実将	ちんげんさい	那覇市	
	金城 敏	セルリー	糸満市	
	新垣 清一	キャベツ	那覇市	
	赤嶺 道広	トマト	豊見城市	
	仲地 英直	ミニトマト	豊見城市	
	赤嶺 敏夫	ミニトマト	豊見城市	
銅賞	大城 勇	きゅうり	南風原町	
	山城 卓	かぼちゃ	南大東村	
	金城 正弘	なす	那覇市	
	伊森 正秀	大型ピーマン	八重瀬町	
	中村 伸次	レタス	糸満市	
	東風平朝和	ちんげんさい	那覇市	
	第15回果樹品評会受賞者名簿	受賞者	品目名	市町村
	農林水産省生産局長賞	小池美智代	パッションフルーツ	糸満市
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長賞	小池 功	パッションフルーツ	糸満市	
沖縄県農林水産部長賞	赤嶺 之昭	スターフルーツ	南風原町	
優良賞	金城 美隆	パッションフルーツ	南風原町	
〃	金城 英順	パッションフルーツ	南風原町	
〃	中村 京睦	アテモヤ	南風原町	
第14回野菜産地活動表彰受賞者名簿	受賞者	市町村	代表者	
第8回花き産地活動表彰受賞者名簿	JAおきなわ大里支店野菜生産部会	南城市	部会長 宮城 英正	
おきなわブランド化貢献部門	JAおきなわ糸満支店花卉生産部会	糸満市	部会長 喜納 亨	



(園芸技術普及班：神山桂子)

環境保全型農業とは

農業は食料等の農産物の供給の他、国土や環境の保全といった多面的な機能を有しており、農業が将来にわたってこのような機能を発揮していくことは、私たちの生活の安定にも必要なことです。

しかし、近年の農業は土づくりがおろそかになり、化学肥料や化学農薬への過度の依存が高くなっています。その結果、環境に負荷がかかり、将来にわたって持続的に農業が行えなくなる可能性があります。

このような状況の中、環境に配慮した「環境保全型農業」が注目、推進されています。具体的には、地域で慣行的に行われている栽培で使用する化学肥料・化学農薬の量や回数を基準として、これらを低減する農業生産方式を指しています。

環境保全型農業には、化学肥料・化学農薬の使用量及び回数を削減する割合によって3つの認証制度があります。

- エコファーマー：化学肥料・化学農薬の使用量及び回数を 3割削減
- 特別栽培農産物： ” 5割削減
- 有機農産物： ” 10割削減

しかし、単純に化学肥料・化学農薬を減らしただけでは収量が落ちてしまうので、以下の3つの技術を組み合わせる必要があります。

- 堆肥や緑肥作物の施用
- 化学肥料の代わりに有機質肥料の利用
- 化学農薬の代わりに物理的防除や天敵の活用

環境保全型農業を実施することで、環境負荷低減と併せて消費者の求める安全・安心な農産物の供給にもつながります。

環境保全型農業に取り組む際には、普及指導員にご相談ください。

	エコファーマー	特別栽培農産物	有機農産物
技術的内容 化学肥料・化学合成 農薬の低減割合	3割減	5割減	10割減
認定機関	県	県	国から認定を受けた 登録認定機関
認定対象	人(農家) 計画	物 (未加工の野菜や果実、 乾燥調製した穀類、豆類、 茶など)	物 (未加工の野菜や果実、 乾燥調製した穀類、豆類、 茶など)
有効期間	5年(再認定あり)	1年 (1度に限り更新あり)	取消を受けない限り (最低年1回の検査あり)
マーク			

(地域特産振興班：新里重希子)

アグリチャレンジ講座で農産加工の知識習得を！

今年度8月～12月にかけて、農産加工による起業者を対象に、アグリチャレンジ講座を下記のとおり開催しました。講座を通して、加工起業に必要な情報収集や起業者交流ができる場づくりを目指しています。次年度も開催予定なので、栽培した農産物を加工したい農業者は、ぜひ、農業改良普及センターまでご連絡下さい。

	内 容
第1回	講話「マーケティングを活用した商品開発の在り方とその効果」
第2回	講話と演習「衛生管理の基礎について」
第3回	加工施設視察「農業生産法人(有)グリーンフィールド」
	中央卸売市場視察
	講話と演習「食品表示制度について」
第4回	商品仕様書を使った「模擬商談会」
第5回	中部優良農家事例視察「黄金茶屋」
	分析施設見学「沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター」



普及センターでの講座

みなみの味 グリーン・ツーリズムの活動紹介

「地産地消」をテーマに『おきなわ花と食のフェスティバル2016』が那覇市の奥武山公園で開催されました。そこで、南部地区加工・体験起業による農家組織『みなみの味グリーン・ツーリズム』が、2月6日限定で出店し、「農産加工品の試食・販売」と、「ハーブを使った体験イベント」を行いました。当日はあいにくの天気でしたが、出店した「岸本ファーム」、「joy工房」、「大頓ファーム」、「トンプリン」の皆さんは、「自慢の味」を多くの来場者に紹介しようと笑顔で対応しました。出店者の皆さん、お疲れ様でした。



他会員も駆けつけました

起業者紹介：のはらファーム

目指すのはマンゴー品質の向上と、安全・安心、そして「おいしい」ものづくりです。

【起業概要】

出身地：南風原町
 所在地：南城市
 代表者：野原和子
 取組内容：マンゴー生産加工
 販売
 従業員：2人、パート

【取組みの経緯】

- 平成21年度に、南城市大里にマンゴーハウス3棟を設置し就農。
- 平成25年度に、キズ果等の規格外を活用したカットマンゴーやジャムを商品化し販売をスタート。
- マンゴージャムは、「果肉がごろっとしたジャムは他に無い」と好評。



「認定農業者？ 認定新規就農者？ どう違うの？ メリットは？」

～農業経営担当がよく聞かれる質問～

農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村は地域の実情にあわせ農業経営の目標等を示した「基本構想」を作成しています。認定農業者、認定新規就農者、どちらもこの基本構想の目標を目指した計画をたて、計画が適正か達成の見込みがあるかを審査後、市町村から認定された農業者(法人含む)です。



認定農業者

- ・年齢制限なし。専業・兼業は問いません。
- ・農業経営を営む者(法人含む)
- ・新規就農希望者もなれる。ただしベテラン農家向けの内容を目指す計画が必要
- ★「農業経営改善計画」を作成する
- ・現在から5年後の計画(更新あり)
- ・年間労働2000時間以内、農業所得350万円以上を目指す(糸満市は360万円)
- ★認定農業者になると
- ・農地のあっせん対象
- ・スーパーL資金の貸付対象(人・農地プラン位置づけられると5年間無利子)
- ・各種補助事業の対象
- ・農業者年金の国庫補助制度

認定新規就農者

- ・原則18歳以上45歳未満。
- ・特定の知識・技能を有す65歳未満。
- ・法人(上記の者が過半を占める場合)
- ★「青年等就農計画」を作成する
- ・就農から5年目までの計画
- ・年間労働150日以上、農業所得175万円以上を目指す(南城市は250万円)
- ★認定新規就農者になると
- ・農地のあっせん対象
- ・青年等就農資金(開始型)150万円(人・農地プラン位置づけが必要)
- ・青年等就農資金、経営体育成強化資金の貸付対象
- ・新規就農一貫支援事業の対象(人・農地プラン位置づけ前)

● 認定農業者あるいは認定新規就農者に認定されても、必ずしも各種支援がすべて円滑に受けられるものではないので注意して下さい。なお、重複して認定を受けることはできません。

● 夫婦あるいは親子で共同申請(連名)もできます。その場合は家族経営協定を結びお互いがしっかりと共同経営者である証明が必要です

● 認定農業者最大のメリット!!

認定農業者制度は、我が家の農業経営を見直し、関係機関と力を合わせ、経営の前進化を図ることができる点に大きなメリットがあります。



皆さん、確定申告はすみましたか？



昨年の収支をもう一度家族で見直して、今後の計画に役立てるきっかけにしましょう。今期、あるいは来年、5年後、10年後にどのような営農プランがありますか。昨年を振り返り、数値を見直して、今後の営農計画をたてるよいチャンスです。

(普及企画班：安藤さやか)

久米島農業情報

～がんばる農業者たち～

1. 4年ぶりの農業青年クラブ再結成

調査研究(農業青年の就農状況調査)結果から農業青年クラブ活動に前向きな意見が多くあり、今回の再結成につながりました。新会長の伊敷会長は「これからの久米島の農業を発展させ我々農業青年クラブで多くを学び、自分の目標とする農業経営を目指しがんばって行きたい。また、将来はこのメンバーから久米島のリーダーとして活躍出来る様にして行きたい」との希望と抱負がありました。定例会では子牛の発育測定による牧草管理や農業経営改善の勉強会や町担い手育成協議会を中心に関係機関連携のもと農業簿記講座も開催され、クラブ員の積極的な参加もあり年度末には青色申告へとつないでいます。



写真1 総会の様子

2. 直売所「ゆんたく市場」オープン

ゆんたく市場の目的は農産物の地産地消や山里地域の活性化です。これまでは無人売店での営業でしたが農業者の熱意で規模拡大し、総菜や雑貨等も販売し高齢者の買い物支援や観光案内も予定しています。



写真2 オープンの様子

3. 久米島ダットンそば愛好会の結成

平成27年5月9日に「玖美の島黄金ダットンそば愛好会」が結成されました。会の目的は高齢者の生きがいと地域活性化を目的に結成され、西銘集落の高齢者を中心に12人で活動しています。栽培面積は約1000坪でまだまだ小規模ですが、サトウキビや甘しょとの輪作や遊休農地の解消など検討し今後も支援していきます。



写真3 そば栽培の様子

4. 久米島町熱帯果樹研究会

研究会は昭和61年7月に設立され、ウリミバエ等の根絶後に組織的な取組みと本格的な本土出荷を目的に設立されました。これまで熱帯果樹やパイン等の生産振興に取り組んでいます。平成25年度からはパインの新品種適応性展示ほも設置しています。



写真4 講習会の様子

最後に

久米島では園芸品目や畜産、工芸作物など多くの品目があり、農業者が各組織で離島のハンディを吹き飛ばすくらい積極的に一所懸命、久米島の農業振興に尽力しています。

(久米島駐在：宮城明生)

3年ぶりのナス栽培と食育に取り組む ～八重瀬町:新垣次夫さん～

八重瀬町のビニールハウスでナスの栽培に精を出すのは、JA小緑生産部会の新垣さん。普及センターだより(108号)の「がんばれ！NEWファーマー」以来、6年ぶりの登場です。前回、ピーマン農家として紹介されましたが、現在は、施設を中心に約950坪で、ナス、さやいんげん、オクラなどを栽培しています。以前もナスを栽培していましたが、連作のため、立ち枯れ株が多くなり、ミニトマトなどに品目を変更しました。今期は、3年ぶりのナス栽培です。立ち枯れ病等の病害虫に細心の注意を払いながらの再挑戦です。また、新垣さんは平成22年から、那覇市や八重瀬町の小中学生の

農業体験学習も受け入れ、食育にも取り組んでいます。「農業の振興には、地域の人と人との理解と繋がりが大事」と考える新垣さん。「将来、指導農業士になって、後輩を育てながら仲間を増やし、一方で、地域の子供たちの農業実習にも引き続き取り組み、食育を広めていきたい」と、優しい笑顔で語りました。



(普及企画班：河村太)

サヤインゲンの菌核病対策

～南城市:嘉数太次さん～



南城市知念の嘉数太次さんは、父親の代からサヤインゲンを栽培しているベテラン農家です。ビニールハウスと平張りを合わせた約73aの圃場に、10月から翌年2月の期間、播種をずらしながら管理を続けることで、11月下旬から翌年4月まで、収穫を途切れさせることはありません。

ここでは、太次さんが行っている菌核病の防除体系を紹介します。

重要ポイント:天気を見て、菌核病が入る前から

着蕾前～開花始め頃
(収穫開始2週間前まで)

ベンレート水和剤
(2,000倍)
1～2回 散布



発生前の予防防除で、収穫期間中の防除回数、病害の蔓延を抑えている

それでも着莢後に菌核病が入りそうな時は、**収穫開始直前～収穫期間中**
(収穫前日まで)



・アミスター20フロアブル(2,000倍)
・スクレアフロアブル (2,000倍)
いずれかを 1回程度散布

菌核病について

- 年末から翌1～2月にかけて、**天気予報を要Check!**
- 冷え込みや天候の崩れが続く前に、菌核病の予防防除を行う



(園芸技術普及班：與那嶺かおる)

圃場で蔓延させてから殺菌剤を使っても抑制効果は低いです!